

第7回

## 中華帝国の形成

監修・講師  
 佐川英治

### 学習のねらい

紀元前 1700 年ごろに殷王朝が成立して以降も、今日の中国のもとになるような統一国家ができるまでには長い年月がかかった。周の時代には天子と諸侯の君臣関係にもとづく封建制度がとられた。戦国時代を経て秦の始皇帝は天下を統一し、郡県制によって全国を統一的に支配しようとしたが、長くは続かず、漢は郡県制と封建制を併用する郡国制をとった。そして武帝の時代に再び天下が一つとなり、漢帝国が繁栄を迎える。このような長い時を経て漢民族のアイデンティティが形成されていく中華帝国誕生の歴史を見る。

- ⋮ <始皇帝の中国統一> ⋮
- ⋮ 殷 甲骨文字 神権政治 周 封建制 戦国時代 諸子百家 ⋮
- ⋮ 孔子 老子 秦 始皇帝 郡県制 焚書坑儒 万里の長城 匈奴 ⋮
- ⋮ <漢帝国の繁栄> 漢 高祖 郡国制 武帝 後漢 光武帝 ⋮
- ⋮ <司馬遷「史記」> 史記 司馬遷 紀伝体 ⋮

### ■ ■ ■ 始皇帝の中国統一 ■ ■ ■

伝承での最初の王朝は夏だが、確実にその存在が明らかなのは殷である。殷を滅ぼしたのは周で、各地の諸侯を封建制で統治し、青銅器に文字を刻んで贈るなどして王の言葉を伝えた。その後、各地の諸侯が自立し、春秋戦国時代を経て、戦国の七雄の一つである秦が、紀元前 221 年、天下を統一した。

最初の皇帝となった始皇帝は、文字やはかり、通貨などを統一し、また全国を 36 の郡に分け、その下に県を置き、官僚を派遣して統治する郡県制を施行した。また焚書坑儒と言って、各地の思想や文化、歴史に関する書物を焼き払い、自らの考えに従わない学者などを生き埋めにするなど、急激な統一を進めた。万里の長城の修復や、匈奴のと戦いへの動員など、その統治は人々の反乱につながり、秦は始皇帝の死後、わずか 3 年で、滅亡した。

## ■■■ 漢帝国の繁栄 ■■■

漢は、秦が郡県制によって全国を一律に統治しようとして反発を招いた反省から、秦の郡県制と、周の封建制とを組み合わせさせた**郡国制**を採用し、王国を復活させた。また匈奴と正面から衝突することを避け、内政の充実に力を注いだ。

武帝の時代には、国力の充実を背景に匈奴との戦いに乗り出した。さらに領土を拡大し、秦の時代をはるかに超える大帝国を築いた。また武帝は王国の力を弱め、全国の暦を統一し、元号を創設するなど、皇帝を中心とした統一国家としての体制を強化した。

## ■■■ 司馬遷「史記」 ■■■

「史記」は、武帝時代に**司馬遷**が著した歴史書で、伝説の王朝から、漢の武帝時代までの歴史が書かれている。帝王の年代記である「本紀」と、歴史上活躍した個人の伝記「列伝」から成り、このスタイルを「**紀伝体**」と言い、その後の中国の歴史書に踏襲されていく。列伝とはさまざまな歴史上の人物の伝記である。こうして個人を歴史の主役にすることで、それまでの歴史が各国の歴史の寄せ集めになることを避けるねらいがあったと考えられる。司馬遷は、新たな統一国家にふさわしい、「中国人の歴史」を書こうとしたのである。

### 考えてみよう 調べてみよう

- 諸子百家と呼ばれた思想家たちが活躍した背景と、それぞれが説いた思想について整理してみよう。
- 秦の始皇帝の統一と、漢の武帝の統一には、どのような共通点や違いがあるか整理してみよう。
- 「史記」から生まれた故事成語とその由来となった出来事を調べてみよう。